

# プロジェクトチームの活動報告

## スキー場跡地自然復元プロジェクト

### 活動の目標と到達点

長野市大岡の聖山には、「聖山パノラマスキー場」がありつい最近まで営業をしていました。ところが、スキー人口の減少や地球温暖化の影響を被って、平成21年度末をもって閉鎖されるに至っています。

聖山パノラマスキー場以前にも県内各地でスキー場の閉鎖が相次いでいて、お花畑に变身したスキー場もあれば、自然の成り行きに任されて森林化しているスキー場跡地もあります。



ブナの森の苗木たち

大正時代の地図を見ると、昔の土地利用の状態がわかります。この地図からは、聖山周辺の各地に「採草地」が点在していたことがわかりました。このプロジェクトでは、聖山の各所にかつて存在した採草地の植生とブナ林をスキー場跡地に復元し、

里山「聖山」における生物多様性を維持・発展すべく、都市・農村と世代間の交流を図りながら活動を展開していく予定です。関心のある方は遠藤 (t.021@yahoo.co.jp)宛へご連絡ください。

これまでの成果としては、①スキー場跡地における草原性希少野生植物の分布確認、②ブナ芽生えの鉢上げと育苗、③スキー場跡地森林化防止のための樹木の伐除、④外来植物「ニセアカシア」の拡大防止と駆除などがあげられます。

今後の活動としては、これまでも続けてきましたが、大岡小学校のみどりの少年団との共同の活動や、草原の森林化防止のための火入れの実施、および動植物の調査等です。多くの方が参加されることを願っています。

(スキー場跡地の自然復元プロジェクトチームリーダー 遠藤和夫)

## 第1回 国際ユース環境会議

### 感動とともに終了



2012年6月15～17日 鬼無里にて開催

自身による活動の輪が長野市に作られることが期待できます。スカイプ等の通信手段を使えば世界のユースと意見交換も可能です。留学生など海外の方も多いのでスタッフとして国際交流することもできます。また、「地域の環境を生かした伝統的生活」をテーマに、会議を鬼無里で開催することで環境の多様性や歴史性を学ぶこともできました。

子どもエコクラブは、日本中で15万人以上が登録していますが、中学、高校になると部活動や受験等で、環境活動から遠ざかる傾向にあります。成長期であるユースが活動しにくい現状は、環境活動を地域に根付かせようという大きな課題です。子どもエコクラブの活動で、国連環境計画会議や生物多様性ユース国際会議などで子どもを海外に参加させたことから、国際的な体験が子どもの意識や、考え方を大きく成長させていることがわかりました。そこで、「国際\*環境」をテーマに、ユース(中大大学生)を主体にした会議を考えました。ユースが参加することで、ユース自身による活動の輪が長野市に作られることが期待できます。スカイプ等の通信手段を使えば世界のユースと意見交換も可能です。留学生など海外の方も多いのでスタッフとして国際交流することもできます。また、「地域の環境を生かした伝統的生活」をテーマに、会議を鬼無里で開催することで環境の多様性や歴史性を学ぶこともできました。会議は、ユース26名、一般参加者は地元の人から大人まで約80名と大盛会でした。初日は全員で雨の中、裾花自然園の散策、午後は有害鳥獣として捕殺されたシカを解体し調理することで里山の現状の一端を体験してもらいました。その後、スカイプによる国際会議を行い、海外との意見交換を実体験。2日目は伝統食のおやき作りを地元の方々から教わり、実際に作って食べました。午後は「世界へのメッセージ」をテーマにグループで話し合い、発表しました。最後に地元の小学生たちの楽しく元気なダンスを披露していただき、2日間の学習を無事、有意義に終わることができました。

(子どもの環境学習支援プロジェクトチームリーダー 渡辺隆一)